

# 北九州市地域福祉振興協会の支援事業における コロナ禍での事業取組みについて



北九州市地域福祉振興協会では、地域福祉活動の振興を図るため、それらの活動を行う団体に対し、活動資金の一部助成を行っています。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、活動が制限されるなか、それぞれの団体が創意工夫をして、前向きに活動に取り組みました。

当協会の助成事業のなかで、コロナ禍で取り組んだ事例やポイント等を紹介します。



## 【事例1】年長者・障がい者の作品展

展覧会方式の開催が難しかったため、「Web上」で開催しました。

その結果、会場の準備や設営、作品の設置をする必要がなくなり、より多くの人が出展しやすい形になりました。Web上であれば、作品のスペースを気にする必要がありません。また、ボランティア団体の活動紹介コーナーを作成し、同時に広報を行うなど、新たな取組みをすることができました

## 【事例1のポイント】

インターネット上に作品を公開し、コロナを気にすることなく、誰もが参加・アクセスできるという形式にすることで、イベントの実施ができた事例です。また、インターネットであれば、活動の記録として旧作品の展示を行うこともできますし、作品展示以外にも様々な情報を掲載し、発信することができるのも強みです。ホームページ

上のみでなく、SNSや動画投稿サイトも、今後の新しい

活動拠点の場になっていくのではないのでしょうか。



## 【事例2】地域交流サロン

地域における居場所づくり等の活動も、思ったようには活動ができませんでしたが、参加人数を制限して開催するなどし、感染対策を徹底して活動を行いました。サロンの開催は少なくなったものの、お互いが頻繁に連絡を取り合うようになり、住民同士の見守りや、助け合い、繋がりが深化した一年となりました。

## 【事例2のポイント】

コロナ禍では、従来の活動を行うことが難しく、活動回数が減った団体が多くありました。そのような状況で、高齢者の方への安否確認や声掛け活動は、サロン本来の見守りや、助け合い活動であり、重要なものです。聞き覚えのある、親しい仲の近所の方からの連絡は安心できるものではないでしょうか。連絡の手段としては、電話・訪問・往復はがきの送付などがありますが、それらを行うためにも、事前に見守り対象者の名簿や連絡網を整備しておくことが大切です。

## 【地域活動を行うときのポイント】

活動を行うときは、3密対策や手指の消毒、マスクの着用といった基本的なコロナ対策が不可欠です。どうしても密になる…という場合は、体操や運動、清掃などの屋外活動を、ソーシャルディスタンスを確保しつつ行うなど、内容を見直して活動した団体もあったようです。屋内で実施する場合は、会場の平面図を確認し、ソーシャルディスタンスを確保した配席表を作成、アルコール消毒の設置、入門時の体調確認や検温といった事前準備が必要になります。



ソーシャル  
ディスタンス

